

ぎふ農業・農村を支える人材育成

■ 4Hクラブ 揖斐郡農業後継者クラブ総会の開催

6月5日、揖斐郡農業後継者クラブ総会を開催し、令和6年度の事業計画等を協議した。今年度から新たに2名が加入した。総会后、視察研修などのクラブ活動の強化に向けて話し合った。また、クラブ員の経営は、トマト、きゅうり、米、露地野菜など多品目にわたるが、お互いの近況について情報交換を行った。

農業普及課は、情報提供等を通してクラブ活動を支援する。



【総会の様子】

ぎふ農畜水産物のブランド展開

■ いちご 高温対策への取り組み

近年、温暖化の影響により9月上中旬の気温が高いことから、いちごの頂花房（最初の花芽）花芽分化が平年よりも遅れ、年内の出荷開始時期が遅くなっている。このため、花芽分化を安定させる育苗期の高温対策が喫緊の課題となっている。

そこで、6月5日にいちご生産者の協力のもと、ハウス内の高温抑制に期待できる遮熱資材塗布の現地実証試験を開始した。

今後農業普及課は、環境測定や花芽検鏡等を行い、技術について検証する。



【遮熱材を塗布する様子】

■ 柿 摘果講習会を開催

6月23日、大野町かき振興会主催の摘果講習会を大野町内6カ所で開催し、会員約300人が出席した。

講習会では、技術部会と農業普及課から柿の生育状況や病害虫の発生状況等について情報提供し、大玉で高品質な柿を生産するため、適正な着果数確保に向けた摘果時期や方法について指導を行った。

今年の着果量は平年よりも多いため、収量向上のためには摘果作業が重要となる。このため、生理落果を確認したあと、適期に実施するよう注意喚起を行った。また、果樹カメムシの被害も心配されるため、防除について併せて注意喚起した。



【講習会の様子】

■ 柿 帰農塾フォローアップ研修の開催

6月23日、JAいび川と連携し柿帰農塾のフォローアップ研修を開催し、帰農塾卒業生3名が出席した。

農業普及課は、「より防除効果を高める病害虫防除方法」について講義を行い、大野町かき振興会技術部員は、研修柿園で摘果作業の実演と実習を行った。卒業生は柿の栽培管理について理解を深めた様子であった。

農業普及課は、引き続き柿産地の担い手育成支援を行う。



【研修会の様子】

■茶 産官学連携による和紅茶の製造

岐阜大学、(有)サポートいび、岐阜県の産学官連携で害虫加害茶葉を利用し密香発揚を目指した和紅茶の生産に取り組んでいる。6月27日に二番茶による製造と官能評価を行った。

この和紅茶は、(有)サポートいびが製造・販売する予定で、現在、岐阜大学の学生を中心にパッケージングを考案・作成している。11月の国民文化祭イベントなどでプレリリース発表する予定である。

農業普及課では引き続き、製造、製品化に向けて支援する。



【製造の様子】

■大豆 栽培研修会で管理の確認

揖斐地域で大豆は、水稻、麦と輪作して作付けされる主要な土地利用型作物である。6月18日、JAいび川主催の大豆栽培研修会がJAいび川担い手サポートセンターにて開催され、約30名が出席した。

JAいび川から栽培こよみの変更点について説明し、農業普及課から昨年度の課題をふまえた害虫対策、排水対策や、持続的な生産に向けた土壌診断のすすめなど指導を行った。

7月中旬頃から播種が始まるため、気象や病害虫の発生状況に応じた情報提供など高収量、高品質生産に向けて支援する。



【栽培研修会の様子】

地域資源を活かした農村づくり

■薬草プロジェクト 薬草体験教室の開催

6月7日、揖斐川町は春日地域に古くから根付く薬草文化の理解を深めるため、揖斐高校生活デザイン科食物コースの3年生10名を対象に、薬草体験教室を開催した。揖斐川町は、薬草文化をPRする「いび薬草の里づくりプロジェクト」を推進しており、薬草の採取やクラフトコーラ作りの体験を通して、高校生が取り組む薬草を活用した料理メニューの開発に役立ててもらいたいがある。

農業普及課は、揖斐川町が推進するプロジェクトへ協力し、薬草文化を守り育てる活動を支援する。



【薬草採取体験の様子】

中山間地域を守り育てる対策

■飛騨美濃伝統野菜 岐阜大学生との連携

岐阜大学里山くらし応援隊は、春日地域の魅力発信を行うため、揖斐川町の貝原棚田を拠点に活動を行っている。6月から本格的な活動が始まり、「春日きゅうり」の定植作業、棚田の植生や利用状況の調査を行った。また、春日地域の新拠点「はるひの案内所」を訪問し、お茶の試飲や春日地域の薬草の話聞き、新たな地域の魅力に触れた。

農業普及課は、今後も飛騨美濃伝統野菜の普及や地域活性化につながる学生達の活動を継続して支援する。



【作業の様子】